



2026 年度

# 4月 園だより

社会福祉法人雲柱社  
五日市保育園

「この子にはこの子の育ちの時がある、これは神さまの時といえる。その子に備えられた育ちの時。」

桜の花も咲き誇るやわらかな春の光の中、新年度が始まりました。ご入園、ご進級おめでとうございます。五日市保育園では、神さまに見守られながら、一人ひとりありのままの存在が大切にされるキリスト保育を行っています。「あなたは大切な存在である」という思いを土台に、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境を整えていきます。

「神は人間を多様に造られました。顔も姿も物事に対する感じ方、考え方も、それぞれに違います。その違いを違いとして認め、子どもと保育者がともに育ちあうところから保育は始まります。」(キリスト教保育50の質問より)

一人ひとりに備えられた育ちの時を大切に、焦らせたり、せかしたりすることなく、しっかりと気持ちを受けとめ、寄り添いながら日々の保育を丁寧を守っていきたいと思います。新年度も一年間どうぞよろしく願いいたします。

## 小さな社会で

お家から保育園という小さな社会に入ってきた子どもたちは、友だちと遊んだり、いろいろなことが出来るようになったり、嬉しいこと、楽しいことをたくさん経験します。でも、時にはケンカをしたり、思ったようにならない悔しい経験をすることもあります。その過程で子どもたちは葛藤しながらも自分をコントロールすることを学び、和解や相手と折り合うすべを獲得していきます。また、仲間と一緒に過ごす喜びと楽しさを体験し、共に生きることの素晴らしさの中で成長します。こうして、お家では出来ない経験を通じ、コミュニケーション力や社会性を身につけていきます。子どもが育つには「上手くいかない体験」もできる「子どもの社会」が絶対必要です。上手くいかなかった経験が自分で考えるきっかけとなり、次へのステップとなります。

五日市保育園では「異年齢たてわり保育」を通して、子どもたちがたくさんの経験や、安心して失敗が出来る環境を整えています。転ばないように、失敗しないようにと大人が先回りばかりをして育てるのではなく「転んだらまた立ち上がる、失敗しても次にまた頑張れる力」「どうすればよかったのかを考える力」を大切に育てていきたいと思っています。そして一人ひとりがお互いの違いを認め合い、自分のことも周りの人のことも大切に出来る子ども、平和を作り出す子どもに育ってほしいと願っています。

(園長 関根富美子)

たいせつなみんなへ

あたらしいまいくえんでのせいかつが はじまりましたね。

はじめてのことにドキドキしたり ちょっぴりさみしくなったりしても だいじょうぶ  
せんせいたちは いつもみんなのそばにいます

おともだちとあそんだり たくさんわらったり  
これからすてきなことがたくさんまっています

みんながあんしんしてすごせるように  
かみさまがいつもみんなをまもってくださいますように

